

2011/03/06

秋田わら仕事ノート 3 ver.2

最も易しい甲編みの

クラグツ作り



1. ワラの準備

- ①シベをとり、短いワラを抜く。大きく一つかみずのワラ束を3つ作り、打つ（あまり強く打たないこと）。打ったワラを選ぶ。極端に太いもの、細いもの、切れそうなワラを除いて太さをおよそそろえる。
- ②ワラの量を決める
はかりで量って、75グラムの束を4、25グラムの束を4作る。（1足分）

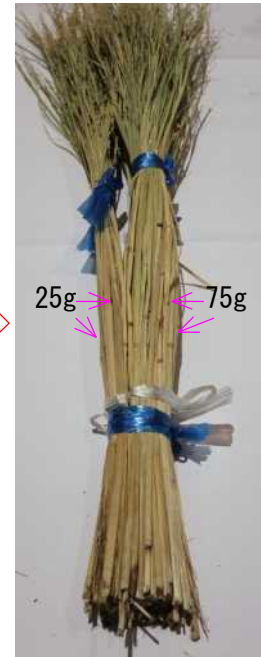
75g×4 25g×4



75gの束と25gの束を組む



前のものを2つ組む



ワラをこの状態に束ねる

本来は、一つかみのワラから手加減で、適当にこれぐらいの割合に分けながら編むが、ここでは初心者のために、あらかじめ分けておくと作りやすい。

2. ワラ束の元（尻）をしっかりとしぼる。

- ①麻紐で仮しばりをする。

本来は燃ったワラだけで固くしぼるが、初心者はゆるくなりがちなので、ここでは予め麻紐でしばってからワラでしばっている。



麻紐を2回巻きつけ、糸を強く引きながらワラ束を前後に転がすようにして糸を締める。ゆるまないようにひもの交差部分を指で押さえ、固結びして止める。

- ②燃ったワラでしばる。



丈夫なワラを3~4本とり、端を足の親指に絡めてし普通に燃る。

端から一つかみくらいの所に、2回巻きつけて強く締める。

燃りが逆だと、絡めたときに、燃りがゆるんで締まらない。

③縛ったワラをワラ束の中央を割って挟み込み、止める。



ワラ束の中央をしっかり根本まで割り、矢印の方向に回す。



さらに回して、縛りワラを割ったワラ束にしっかり挟み込む。



割ったワラ束を合わせて縛りワラを固定する。

3. クツの床（足の裏がのる部分）を編む。



尻を縛ったワラの端を足指にかける。



ワラ束を中央で分け、25gの束を向こうに寄せる。



右の75gの束の外側からワラを一つまみとる。



右側からとった一つまみのワラを、左の75gの束の下に入れて引き締める。



同様に、左の束の外側からワラを一つまみとって、右の束の下に入れて引き締める。



これを繰り返してワラが無くなるまで編む。左右が同量になるように、バランスよく編む。



床が編み上がったところ。三つ編みのようになる。



裏側。オモテ（面／甲のこと）を編むワラが並んだ。



オモテを順序よく編める用に、3～4本ずつ等量になるように、ワラを分けて仮編みしておく。

4. クツのオモテ（面／甲の部分）を編む。

オモテの編み方は様々あるが、一番単純な編み方でやってみよう。



1 床の上に足をのせる。
編み始めの目印を作る。



2 左手前端から一つまみのワラをとる。
一つまみのワラを撚って右へ。



3 右手前端から一つまみのワラをとる。
目印の位置で
ワラを撚って左へ。2に重ねる



4 左手前端から一つまみのワラをとる。
以後、ワラは撚らない！
ワラを右へ。3に重ねる



5 右手前端から一つまみのワラをとる。
ワラを左へ。4に重ねる



6 左手前端から一つまみのワラをとる。
ワラを右へ。3に重ねる



7 右手にでているワラの向こうから3番目を手前に折り返す。
右手前端から一つまみのワラをとる。



8 折り返したワラを指で押さえている
ワラを左へ。前のワラ6に重ねる



9 7で折り返したワラを戻す。



10 左手にでているワラの向こうから3番目を手前に折り返す。



11 左手前端から一つまみのワラをとる。



12 ワラを右へ。前の8のわらに重ねる



13 10で折り返したワラを戻す。



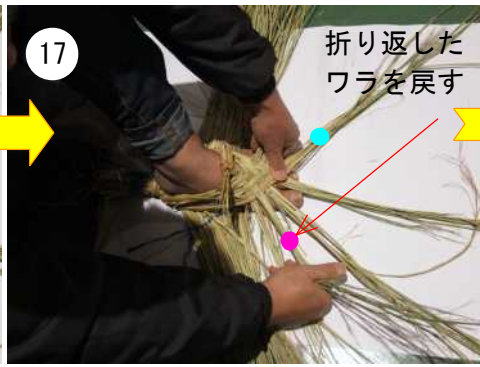
14 つかんだワラを手前に折り返す



15 右手前端から一つまみのワラをとる。



16 右から取ったワラを左からのワラに重ねる



17 折り返したワラを戻す



18 左にでているワラの向こうから3番目をとって手前に折り返す。



19 左手前端から一つまみのワラをとる。



20 左から取ったワラを右からのワラに重ねる



21 折り返したワラを戻す

22 この操作を繰り返してすべてのワラを編む。手のひらの長さより少し長めにするが、足りなければ、先に編んだワラ○を、手前からとって続けて編む。



23 オモテの編み上がり



24 オモテの編み上がり

5. クツの底（裏）を編む。



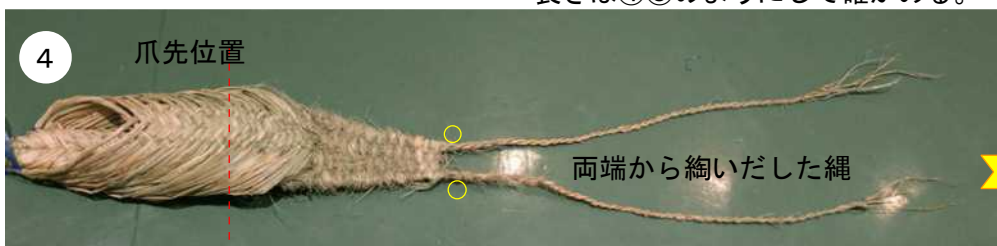
1 編み残したワラを4等分する。



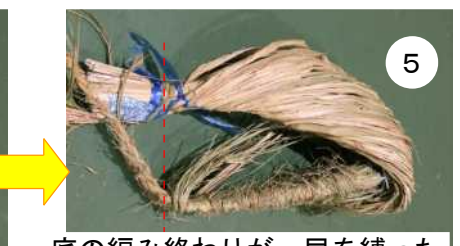
2 それぞれの束から少しずつワラを持ち出してゾウリの床のように編む。芯のワラ束が小さくなるにつれ、底の巾も狭まる。長さは④⑤のようにして確かめる。



3 両端のワラを縄に綯う
1回ワラを足して長く綯う



4 足を入れ、爪先位置で二つ折りにして底の長さを確かめる。



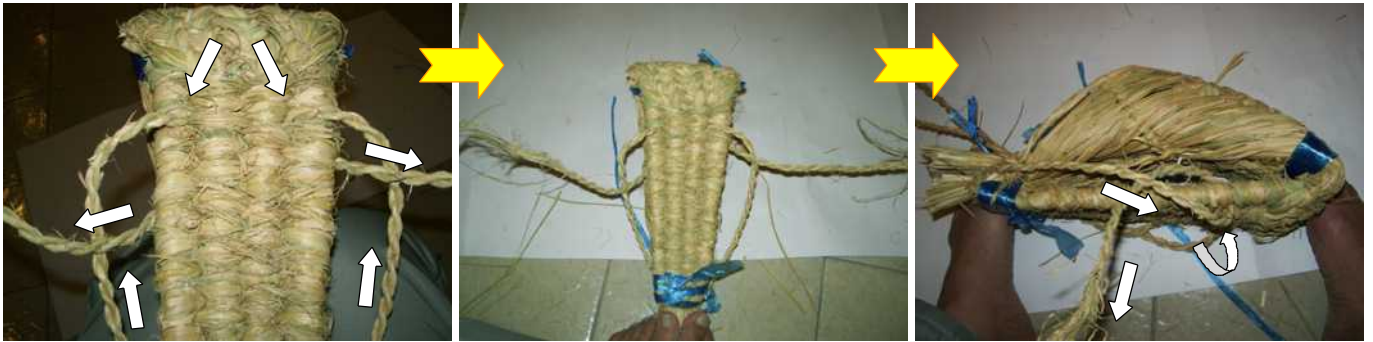
5 底の編み終わりが、尻を縛った位置に来るように編んでおく。

6. 尻のワラを上下に割って、底の端から出した縄を両側から交差させて挟み込む。



尻のワラは奥まできっちり割る。縄をしっかり引いて割り込ませる。両方の縄を絞めて尻のワラを閉じる。

7. 尻からまわした縄を、甲をしぼる位置の底に通す。



筵編みにした底のワラに隙間をあけて、縄を裏から表に通し、写真のように縄にくぐらせる。この後、両脇に張られた縄を、たるまないように絞めてから甲で結ぶ。

8. 尻から両側に張られた縄を甲で結び、残り縄を緇い合わせて、結びこぶを作る。



ゆとりをみて足の大きさに合わせ、甲で締め真結び。

9. 縄を緇い、底と甲をさらにしぼる。



あまり太くない適当な太さの縄を緇う。

縄を横にのべ、中央にクツをのせる。



足でしっかり踏んで

甲で真結び

結び残りの縄を切る

10. 両脇を編む。



尻のワラは最後に切りそろえ、
扇のように開く

※側面を編まないクツは「ダミグツ」といって、埋葬儀礼に用いるものである。

※以下の編み方の説明写真は、途中で脇編みをしているが、通常は最後に編む。

しなやかで切れにくいワラを1本2つ折りにして編む。

写真では編んだ束ごとに編んでいるが、次の束を半分かけて編んだほうが良いかもしれない。



最初の撚ったワラ束と2番目の束を半分、以後隣あったワラ束を半分ずつつくって編んでいく。



端まで編んだら、ひとつ結んで余分を底のワラにくぐらせておく。

両側を編む。

※この写真はオモテの編み方が別で、
余分の縛り縄が付属する別のクツのものを用いている。

